

「円生襲名してほしかつた」

六代目円楽さん 菩提寺住職が思い出語る

前橋

「逝くのが早すぎたね」。演芸番組「笑点」などで親しまれた落語家、六代目三遊亭円楽さんが眠る前橋市元総社町の釈迦尊寺で、山崎奎一住職(80)がしみじみと語る。昨年9月30日の死去から1年。市内で追悼イベントも予定される中、在りし日を振り返りながら「(今なら)『落語がうまくなつたな』と言つておけば良かった」と明かした。

(鈴木学)

墓を置いた縁から市の観光大使にもなった。

山崎住職によると、出会は50年ほど前。群馬での善いイベントをきっかけに花目円楽さんと親交をもつた。付き人だった樂太郎時の六代目ともつながりがあった。その後、落語会や味のゴルフなどを通じ親

く深めた。

1999年、六代目の義



①六代目円楽さんの墓前で思い出を語る山崎奎一住職。墓のデザインは六代目本人がしたという(前橋市元総社町の釈迦尊寺で)。20年前に撮ったという(山崎住職提供)

圓生上座)に使われた。「円樂にしようと思つたんだけど、本人が『円生でいい』と言つんでね」修業時代、師匠方好みのお茶と温度を徹底して調べて出すなど気遣いの人だつたという六代目。「よく

もうまかった。流ちようで安心して聞けるんだけど、講演を聞いている感じだつたのが、円樂を襲名して間

ことだつた。

21年の本紙

の取材にも「『円生』の名

の名跡を継ぎ、再び世に出

すことだつた。

前を二回世に出せば、跡を

継ぎやすくなる。それが三

遊一門や落語界への恩返

し」と語つたといい、僧名

(樂峰圓生)や戒名(泰通

さん)と、

一周忌に際して、改めて

思いを聞いた。「『ありが

とう』と言いたいね。頼み

ごともよく聞いてくれた。

1950年、東京都出身。本名は会泰通(あい・やすみち)。70年、青山学院大在学中に五代目円樂に入門。

高座名「樂太郎」。77年、27歳で「笑点」大

喜利メンバーに。

81年に真打ちに昇進。師匠

の死後、2010年に六代目を襲名した。「笑

点」では、腹黒キャラクター、桂歌丸さん

(故人)との罵倒合戦で人気だった。22年、

肺がんで死去。

今、生きていたら、やっぱり円生を襲名してほしかったね」。そう言って墓前で手を合わせた。

11月19日に師匠しのぶ一門会



一門会で熱演する三遊亭樂京さん

菩提寺の釈迦尊寺では、六代目円樂一門会が開かれている。落語会とお墓参りで六代目をしのんでもうつ企画で、年3、4回は開催したいという。

第2回(8月27日)は二番弟子の樂京さん、四番弟子の樂太さんが出演。観客約50人を前に、樂京さんが「古典落語を中心に、樂太郎時代に得意にしていました演目や、

六代目を襲名してからの演目もかけてまいります。落語に触れて師匠を思い出していただきたい」と引き続きの来場を呼びかけた。

第3回は11月19日午後2時から。大人1500円、中学生以下500円。一番弟子の樂生さん、樂京さん、樂太さんが出演予定。問い合わせは、事務局=電080(6762)4129